9月25日号 第2644号 2003年(平成15年) (昭和24年5月10日 第三種郵便物認可)

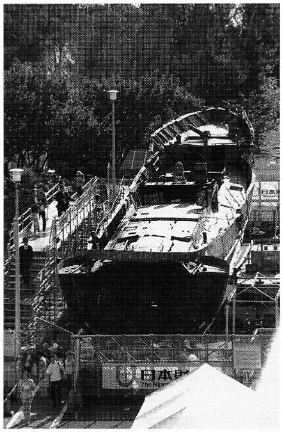
発行所 財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5−3−1
電話 03−3542−3678〜9
FAX 03−3541−9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
(毎週木曜日発行)
購読料 月極610円 送料共

海上保安新聞

しなやかな発想で21世紀
Nissho 日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1−14−14
TEL 03−3553−3161〜4
FAX 03−3551−4898

来年2月末まで延長
北朝鮮工作船展示
連日続く長蛇の列
全国から保存求める声も

東京・お台場の「船の科学館」（品川区東八潮）で一般公開されている北朝鮮工作船の展示期間が、来年2月29日まで5カ月間延長されることになった。旅行代理店などが見学ツアーを組むなど3カ月余りで見学者が100万人を超える反響に、関係機関の間で調整が図られてきた。併行して工作船の保存活動も進められている。「事件を風化させないために」と、全国に支援募金を呼びかけている。



公開されている北朝鮮工作船

5月末から始まった一般公開は、見学者が1日平均1万人のペース。子どもからお年寄りまで幅広い世代が訪れ、修学旅行や総合的学習として小中学生も見学。全国各地の旅行代理店からの問い合わせも多く、旅行の見学コースとしても利用されている。

展示期間は9月30日までの予定だった。しかし、来場者から「もっと長く展示してほしい」という声も多く、㈶海上保安協会、日本財団、海上保安庁、船の科学館が調整を続け、期間を来年2月29日まで延長することを決めた。

また、保存を求める声も多く寄せられている。海上保安協会は見学者に「保存に充てる募金箱」で支援を呼びかけている。9月22日現在、支援金は1880万円に達した。

しかし工作船は、9カ月以上海底に沈んでいたため腐食が激しく、屋外で長期保存展示するのは難しい。保存に耐える補修や運搬、屋根付きの展示室建設には数億円かかると見込まれている。

同協会は全国に協力を広げるため、小川和久・国際政治・軍事アナリスト▽江畑謙介・軍事評論家▽大澤孝征・弁護士▽佐々淳行・元内閣安全室長▽藤田幸・元海上幕僚長ら識者の協力を得て、工作船の保存の必要性を訴えるビラ4万枚を作成。賛助団体や一般企業に支援を呼びかけている。

◇

工作船保存募金の問い合わせは〒104−0045 東京都中央区築地5の3の1、㈶海上保安協会（☎03・3542・3678）。

募金申し込みは次の口座へ。▽UFJ銀行東京公務部口座3625750、㈶海上保安協会工作船保存募金（送料は振込者負担となります）▽郵便振替、口座00190−7−33314、海上保安協会工作船保存募金（手数料は協会負担）。

五管本部

連携訓練スムーズ
ICGと救助・海賊対策訓練

五管本部とインド沿岸警備隊（ICG）との海難救助・海賊対策連携訓練が9月18日午前、神戸沖の大阪湾で行われた。

五管本部から巡視船「せっつ」（神戸）「しまんと」（高知）など巡視船艇8隻と「せっつ」搭載ヘリコプターなど2機、ICGから巡視船「サングラム」と搭載ヘリコプターが参加した。

航行中の客船が海賊に襲われて放火され、乗員・乗客の2人が避難の際に海中転落、海賊は船で逃走したとの想定。訓練は、「サングラム」が遭難通信を受信、ICGから五管本部に火災発生と海賊情報を通報する情報伝達から始まった。

両国巡視船間の連絡体制を確立、捜索海域を設定して両国巡視船艇と搭載ヘリが合同捜索。海賊に放火された客船（「しまんと」）を「かいりゅう」と「サングラム」が放水消火し、海中転落した2人を「サングラム」「せっつ」の搭載ヘリが吊り上げ救助した。

海賊対策訓練では、海賊が乗って逃走する容疑船（「なだかぜ」）を、「むろづき」「こまかぜ」「きくかぜ」が追跡。「サングラム」搭載ヘリが風圧規制して容疑船は減速したが、海賊がヘリに向け自動小銃を発砲したため、「むろづき」が正当防衛射撃。停船した容疑船を「こまかぜ」「きくかぜ」が挟撃、接舷し、特警隊が移乗して海賊2人を制圧した。訓練の状況は八尾航空基地ヘリコプターが撮影し、衛星映像伝送システムで本庁や五管本部に伝送した。

海賊容疑船に接舷・移乗する「きくかぜ」。後方は「サングラム」

訓練終了後、総合指揮官の伊藤隆・五管本部長が「訓練は言葉の壁もなく、両国機関の熟達した技量の下、成功裡に終了した」と講評。

また、観閲した横山鐵男警救監が「日本関係船舶の海賊事件で、ICGが海賊を検挙したことから両機関の連携協力が始まった。訓練は両機関が培ってきた技能を十分に発揮できた。東南アジア諸国を含めた多国間の連携協力を進展させていきたい」と述べると、ICGのスレッシュ・メッタ長官も「訓練は航海の安全を守るのに有効だ。来年はインド沖での合同訓練を計画している。多くの国が参加しての合同訓練にしたい」と、海賊対策での連携協力に意欲を見せた。

ICG巡視船を公開

五管本部との連携訓練のため神戸港に入港したICG巡視船「サングラム」の一般公開が9月17、19日の午後、新港第1突堤で行われ、一般市民ら約250人が見学に訪れた。

「サングラム」は一連の行事を終え、20日午前、神戸港を出港した。

海賊対策チャレンジ

ファルコンを派遣
アジア公海上で哨戒活動

海上保安庁は東南アジア周辺海域の哨戒のため、9月29日から10月4日まで、大型ジェット機ファルコン900（羽田基地）を派遣する。「アジア海賊対策チャレンジ2000」に基づき各国との相互協力と連携・強化を図る一環で、6月末に巡視船「やしま」がマレーシアに派遣されており、今年度の第2陣。松脇達朗・国際刑事課長、大根潔・国際連携推進室長ら5人が同行する。

訪問国は3カ国。29日に哨戒活動をしながらタイのバンコクに到着。海上警察、国家警察、海事局、麻薬取締庁を訪問。10月1日はインドネシアの海上警察、海運総局、国家開発計画庁を訪れる。3日はフィリピンの沿岸警備隊、麻薬取締庁を訪問。それぞれの海上保安機関などで海賊・テロに関する意見・情報交換をし、発生に備えた連携・協力の即応体制を強化する。その間もファルコン900は公海上で哨戒活動を行う。

「アジア海賊対策チャレンジ2000」は平成12年4月に東京で開催されたASEAN（東南アジア諸国連合）10カ国を含む15カ国の「海賊対策国際会議」で採択された。

総務部参事官に富取氏

富取総務部参事官

海上保安庁は9月19日付から24日付にかけて一連の人事を発令した。伊藤総務部参事官が国土交通省に異動、桂環境調査課長が勇退。後任の参事官にに富取・関西国際空港㈱総務部長、環境調査課長に長井・海洋情報部付が就任した。富取参事官は警救部を担当、島﨑参事官は海洋情報部担当になる。

（2面に略歴）

国交省出向・北海道運輸局長へ（総務部参事官） 伊藤國男

＝9月19日付

横浜あまぎ首航士（同予備員） 栗谷美則

＝9月21日付

辞職（環境調査課長） 桂 忠彦

環境調査課長（海洋情報部付） 長井俊夫

＝9月22日付

総務部参事官・海洋情報部（同・警救部） 島﨑有平

同・警救部（関空㈱総務部長） 富取善彦

＝9月24日付

潮流

▼北朝鮮工作船の一般公開の期間延長が決まった。第1、第2会場を合わせて、見学者は100万人を大きく超えている。国民の熱意に背中を押されての決定だった。㈶海上保安協会に、業務が休みの土曜日にも電話がかかってくる。そのほとんどは、工作船がらみだ▼初期のころは「全国各地で公開したらどうか」「維持管理、運搬費がかかるから、有料にしては」など、提言が多かった。夏休みに入ると、「待ち時間は？」「列の長さはどのくらい？」「交通手段を教えて」など、具体的な質問が増えた。最近は、「延長すべきだ」「10月に東京に行く用事があるが」と、延長問題が中心になっていた▼ビデオ「海からの警鐘」への問い合わせも多い。ボランティア組織「海守」の申込者は4万3800人に達した。拉致問題なども含めて、「安全な海」への国民の関心は持続している。工作船保存募金は、保存にかかる膨大な費用との比較から、集まりが順調ではないように言われる傾向がある。しかし、1880万円という額は、すごい数字ではないか。

週間海難情報
9月15日(月)〜9月21日(日)

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は10隻、25人だった。

種類別	隻数
衝突	10
乗り揚げ	4
転覆	1
火災	1
爆発	0
浸水	1
機関故障	8
推進故障	4
舵故障	0
行方不明	0
その他	3
計	32